

特集

# 心にスマイル



# 一緒に『子育て』 しませんか

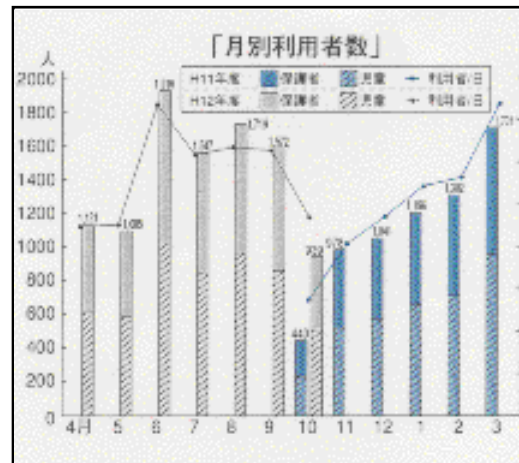


核家族化の進行や出生率の低下などから、子育てへの不安や悩みをもつお母さんが多くなってきています。身近に育児の相談ができる相手や近隣との子育ての交流も少なく、お母さんたちへの身体的・心理的ストレスが増大しており、育児不安の解消や子育て指導など、子育て家庭への支援が積極的に求められるようになってきました。

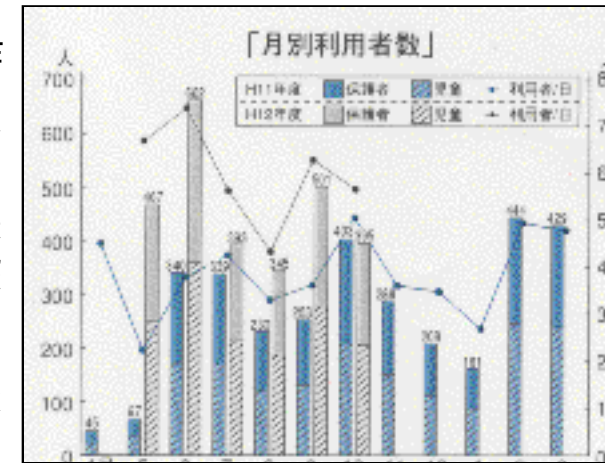
美濃加茂市では、身近な育児相談や子どもの成長に適した環境づくり、さらに、子育てが楽しくなるような仲間づくりなどを支援するために、昨年4月から太田第2保育園に『地域子育て支援センター』を開設し、昨年10月からは、総合福祉会館（新池町）でも、『子育てサロン』を開設し、お母さんたちの子育てへの支援を開始しました。今回は、その利用状況や利用者たちの声を照会します。

## 多くの方が利用しています。

子育てサロンの開放日数は昨年度、開館以来半年で130日ありました。のべ6,658人の利用があり、1日平均の利用者数は51.2人となっています。今年度の利用者数は、10月末までに、1日平均57.6人を記録しており、これは、昨年度と比較して12.5%の増加となっています。利用者の多い理由としては、遊び場を総合福祉会館の休館日以外は毎日開放していること、また、広い室内でのびのび遊べることなどがあげられます。利用者の声を聞いても、雨の日でも寒い日でも、ここなら安心して遊ばせられるという意見が多く聞かれます。実際、今年度の6月の平均利用者は、73.7人を記録しています。



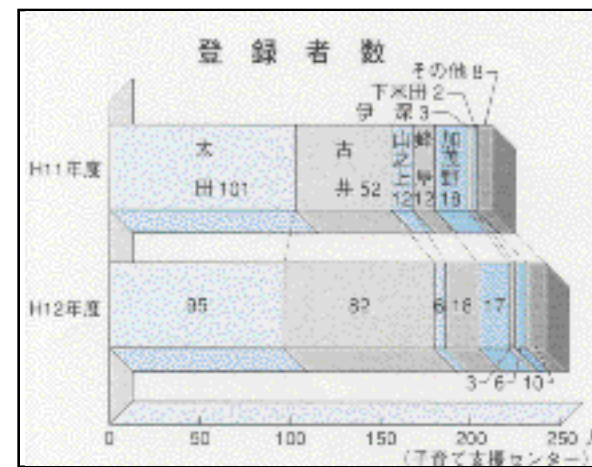
子育てサロン



子育て支援センター

昨年度の利用状況は、「親子教室」と「園庭開放」と合計すると81日間の開放日に、のべ3,207人の利用がありました。1日平均39.6人と、当初の予想を上回る利用者数になっています。2年目の今年度は、10月までの利用者は1日平均54.2人のとなっており、昨年の実績よりも36.8%の増加となっています。主な要因としては、「親子教室」や「園庭開放」が定着してきたこと、お母さんからお友だちへの口コミ効果があげられます。

登録者数は、昨年度208人ありました。地区別では伊深町や下米田町などからの利用者もいましたが、その半数が太田地区に集中していました。これは、初年度ということもあり、支援センターの存在があまり知られていなかったことなどの理由が挙げられます。今年度は10月末までに237人の登録があり、昨年度実績をすでに上回っています。地区別の利用者数を見ると、太田地区が95人で昨年とほぼ同数ですが、古井地区の利用者が82人となっており、60%も増加しているのが大きな特徴です。

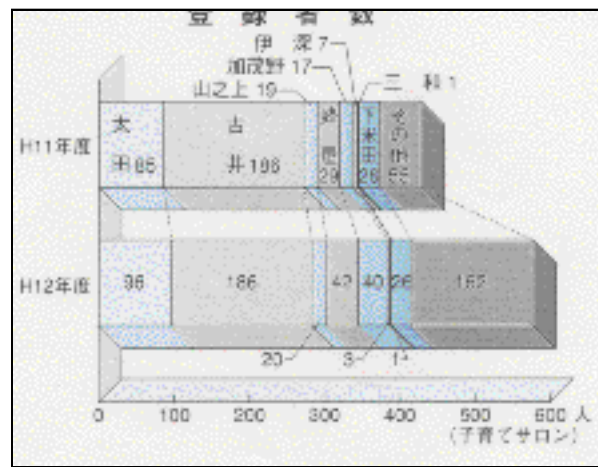
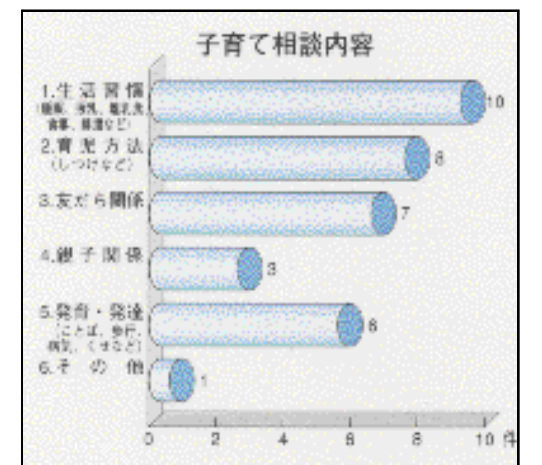


登録者数は、昨年度427人であったのが、今年度すでに576人と昨年の実績を上回っています。登録者の特長は、他の市町村からの利用者が昨年度実績の3倍にもなっていることです。これは、市内のお母さんが、市外のお友達とのコミュニケーションの場として利用していることも一因となっており、お母さんたちにとって、友だちとのコミュニケーションは、子育てに対する不安やストレスを解消にもつながっているようです。最近では、若いお母さんだけでなく、おばあちゃんがお孫さんを連れて来る光景も見受けられるようになりました。



電話の相談にも応じます。

子育て相談は、昨年度33件ありました。内訳では、最も多いのがお子さんの友達関係、次にしつけなどの生活習慣がありました。相談内容から少子化による子育てへの不安が、見受けられます。しかし、途中からは支援センターで知り合ったお母さん同士が相談されたり、意見を交換するような光景も見られました。



子育て支援センター、子育てサロン、加茂野児童館職員による打ち合わせを毎月開催して育児相談などの意見交換を行っています。

育児に関する相談が、昨年度(10月)からだけで33件ありました。親子、友だち関係といった精神的な相談から、食事などの生活習慣に関するものまで様々です。子育てサロンでは、今後もお母さんが気軽に相談できるような体制をとりたくと話しています。

